一般演題

1. 鍼治療を施行したリウマチ様関節炎部位に ^{131}I-Na の集積を認めた甲状腺癌の一例

大塚　信昭　福永　仁夫　小野志磨人
永井　清久　森田　浩一　三村　浩朗
柳元　真一　友光　達志　古川　高子
村中　明　（川崎医大・核）
西下　創一　（同・放）

甲状腺癌の気管内再発を生じた患者に ^{131}I 治療を施行したところ，両足関節および手関節に異常集積を認めた．この ^{131}I-Na の集積部位は骨シンチグラム上の異常集積とほぼ一致していた．同部の骨X線検査では慢性関節リウマチの所見を呈し，かつ鍼治療による金針の存在を認めたが，甲状腺癌の骨転移の所見は認められなかった．本例における ^{131}I-Na の関節炎部位への集積の機序は不明であるものの，鍼治療に基づく同部の血流増加はその一因と推測された．

2. 興味ある核医学所見を呈した心アミロイドーシスの一例

中川　裕章　東野　博　最上　博
望月　輝一　宮川　直子　宮川　正男
藤井　崇　棚田　修二　飯尾　篤
濱本　研　（愛媛大・放）
古川　真穂　（同・一内）

Tc-99m-HMDP の心筋への強い集積を認めた心アミロイドーシスの一例を経験した．

症例は80歳男性，主訴は労作時息切れ．検査所見では，胸部 X-P，心電図，心エコーで本疾患に特徴的な所見が得られた．Tc-99m-HMDP による心筋シンチグラフィーで，左室に一致した強い集積が認められ，心アミロイドーシスと診断された．Tc-99m-HMDP および Tl を使った2核種同時投与による同時収集を行い，病変部位の Tc-99m-HMDP の集積および Tl の欠損像を認めた．

3. Beautiful bone scan を呈した胃癌骨転移の一例

田中　朗雄　黒田　昌宏　中川　富夫
安井光太郎　岡崎　良夫　井上　信浩
平木　祥夫　（岡山大・放）
仲田　浩之　吉本　静雄　木畑　正義
（国立療養所南岡山病院）

症例は46歳女性．腰痛および貧血で発症，まず leukemia が疑われ，骨髄穿刺では dry tap，骨髄生検では低分化腺癌の転移という所見であった．胃透視，胃内視鏡・生検にて，Borrmann 4 型胃癌，低分化腺癌と診断された．入院時の腰椎単純写真では著変なかったが，骨シンチグラムにて，軀幹骨が非常に濃く描出される beautiful bone scan の像が得られ，absent kidney sign を伴っていた．3か月後の単純写真にて肋骨・脊椎などに著明なびまん性骨硬化が認められた．

4. ^{123}I-IMP SPECT 上，高集積を呈した MELAS (mitochondrial encephalopathy with lactic acidosis and stroke-like episodes) 症例

森田　浩一　小野志磨人　福永　仁夫
大塚　信昭　永井　清久　三村　浩朗
柳元　真一　友光　達志　（川崎医大・核）
西下　創一　（同・放）

MELAS 症例に ^{123}I-IMP SPECT を経時的に施行し，その集積状態の変化について検討するとともに，持続動脈採血法による局所脳血流量 (rCBF) を求めた．病変部は，^{123}I-IMP の低集積および高集積として描出された．^{123}I-IMP の高集積部位は，その後のX線 CT 上 LDA に変化し，X線 CT に比し早期に病変を描出し得る可能性が示された．また，rCBF の高値を呈する部位が認められた．これは，脳組織の局所的な代謝性アシドーシスにより，脳血管の拡張を生じ，rCBF の増加をきたしたものと考えられた．

Presented by Medical*Online